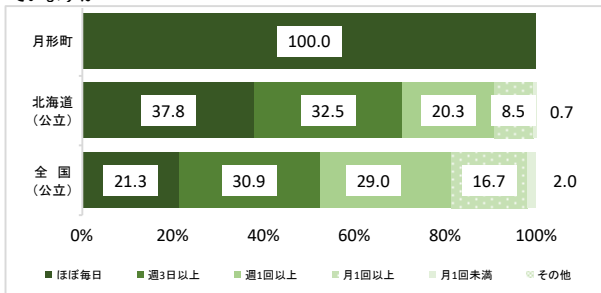


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

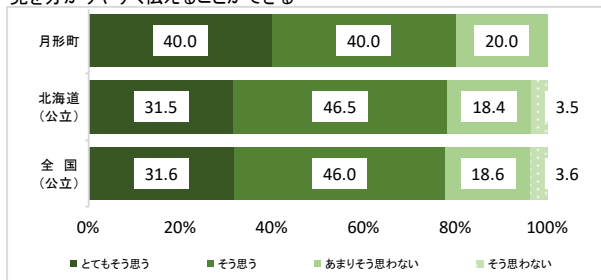
調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

<児童質問>

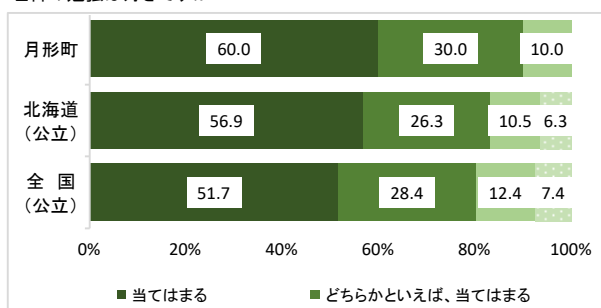
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



小学校

<児童生徒質問>

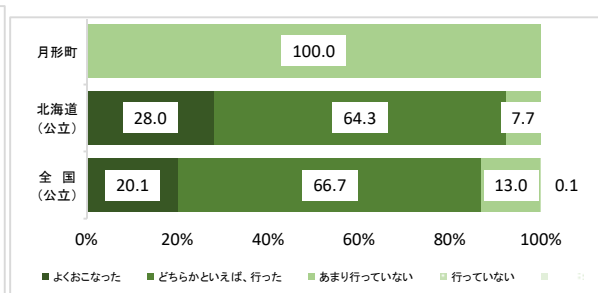
理科の勉強は好きですか



中学校

<学校質問>

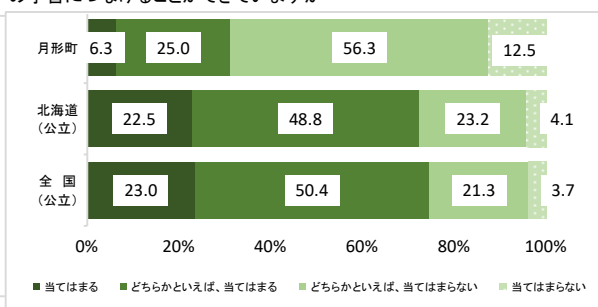
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



中学校

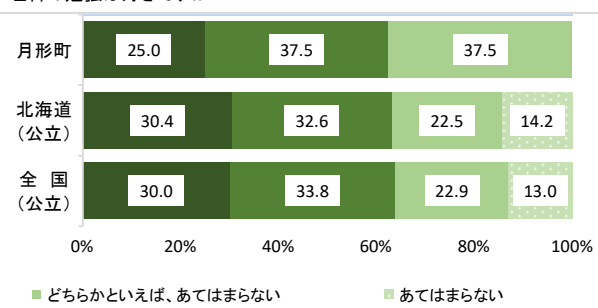
<生徒質問>

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



中学校

理科の勉強は好きですか



○ 調査結果の分析

- 小学校では、理科の勉強が好きな児童が9割となっており、正答率も高く、北海道・全国平均を超えた。高学年では、理科の免許所有教員が授業を担当し、専門性を活かした指導の成果が出たと考えられる。「理科が得意」と感じる児童も「当てはまる」2割、「どちらかといえば、当てはまる」が7割であり、多くの児童が授業を理解し、理科を「好き」から「得意」へとつなげる好循環が生まれている。

- 中学校では、「学習した内容を見直し次の学習につなげられている」と回答した生徒が約3割と少ないため、復習による学びの定着不足が課題である。また、学校質問の「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」では、「あまり行っていない」との回答であったため、今後は生徒の確かな学力を定着させる方策が必要である。

- 小学校ではタブレットを使った表現活動は、多くの児童ができると回答している。しかし、一部の児童はあまりできていないとの回答もあり、単なる操作や提出にとどまり、「自分の考えを相手に伝える」経験が十分ではない可能性が考えられる。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の個に応じた教員や講師の継続的なサポートと配置及び児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組を推進する。
- 中学校では、知識の定着を図るため、ICT端末を活用する。特に、導入した学習支援ソフトによる家庭学習の習慣化を図る取組を推進する。
- 小学校では、基礎・基本の確実な定着と更なる底上げを継続させつつ、知識を活用した探究的な学習活動の充実や、思考過程を言語化する機会の工夫を進める。